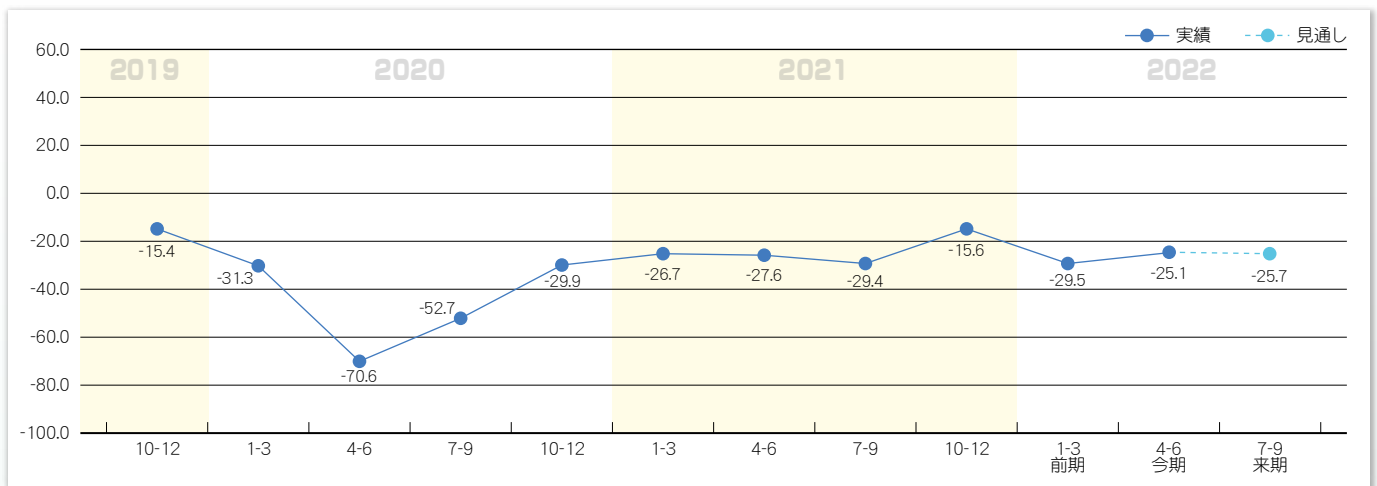


全業種

回答数339社

今期の業況D-Iは、前期比4.4ポイント上昇の▲25.1と、前期より改善。業種別では、卸売業、小売業、サービス業が改善。来期の予想業況D-Iは0.6ポイント低下の▲25.7と、ほぼ横ばいの見通し。不安要素が多く、先行き不透明感は強い。



主要D-Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



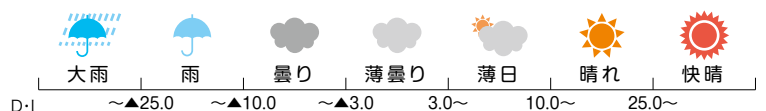
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2022年6月1日～7日
 対象企業 339社
 対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

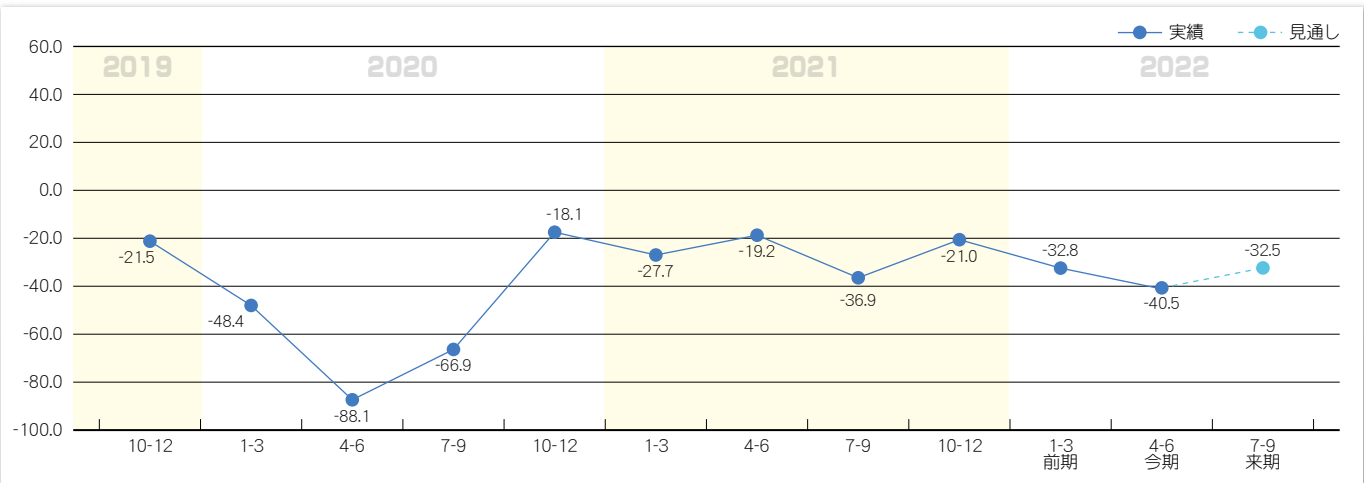


製造業

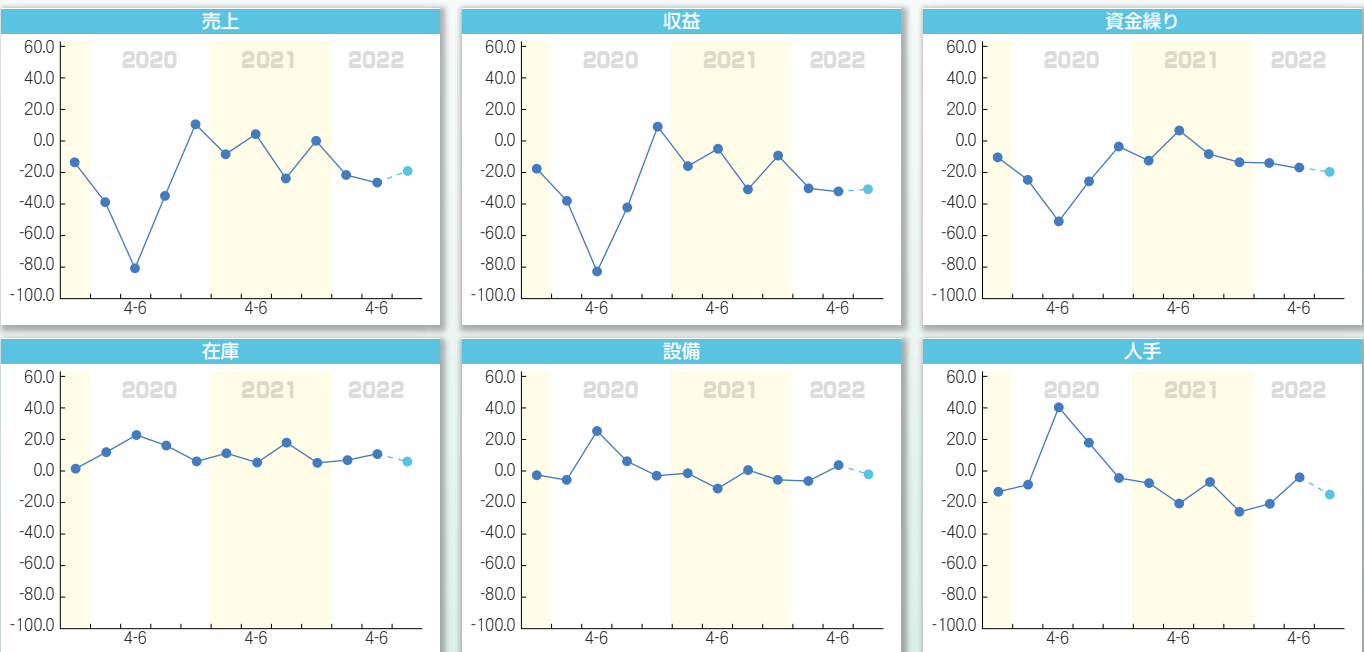
回答数121社

今期の業況D・Iは、前期比7.7ポイント低下の▲40.5と、二期連続で悪化。半導体不足などによる調達難に加え、原材料価格高騰などが影響。来期の予想業況D・Iは8.0ポイント上昇の▲32.5。改善の見通しではあるが、先行きを心配する声も多い。

業況D・Iの推移



主要D・Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



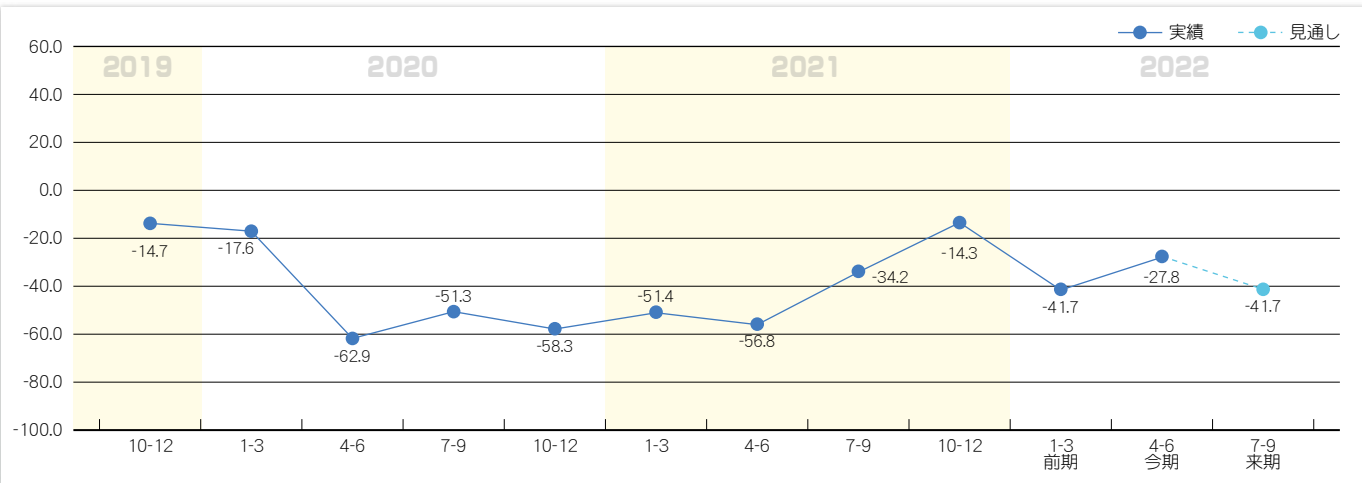
- 円安および現地の人手不足により、原料価格の高騰が続いている。販売価格に転嫁できるように、付加価値を上げる必要がある。(繊維製品製造)
- 瓦業界全体の業況が悪い。燃料高騰の影響が大きく、住宅着工件数や屋根材使用率の低下の影響もあり、厳しい状況が続くと思われる。(瓦製造)
- 急激な円安や明治用水の問題など、外部の問題は多いものの、コロナに比べると影響は少ない。工場の稼働も通常通りであるが、今後の見通しは不透明。(自動車部品製造)



卸売業

回答数36社

今期の業況D・Iは、前期比13.9ポイント上昇の▲27.8となり、改善。仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できているとの声が多く聞かれた。来期の予想業況D・Iは13.9ポイント低下の▲41.7。先行きに対し厳しい見方の企業が多いことがうかがえる。



主要D・Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



調査員のコメント



- 円安などの影響により、商品仕入価格上昇および調達難となっているが、現状、販売価格への転嫁はできている。しかしながら、景況の見通しは依然注視が必要。(食品卸売)
- 売上は例年並みをキープできそうだが、仕入れ先からの値上げ交渉への対応が現状の課題である。(土木資材卸売)
- 仕入価格上昇は、販売価格値上げにより対応している。まわりも値上げしているので、値上げによる顧客離れは起きていない。(碎石卸売)



小売業

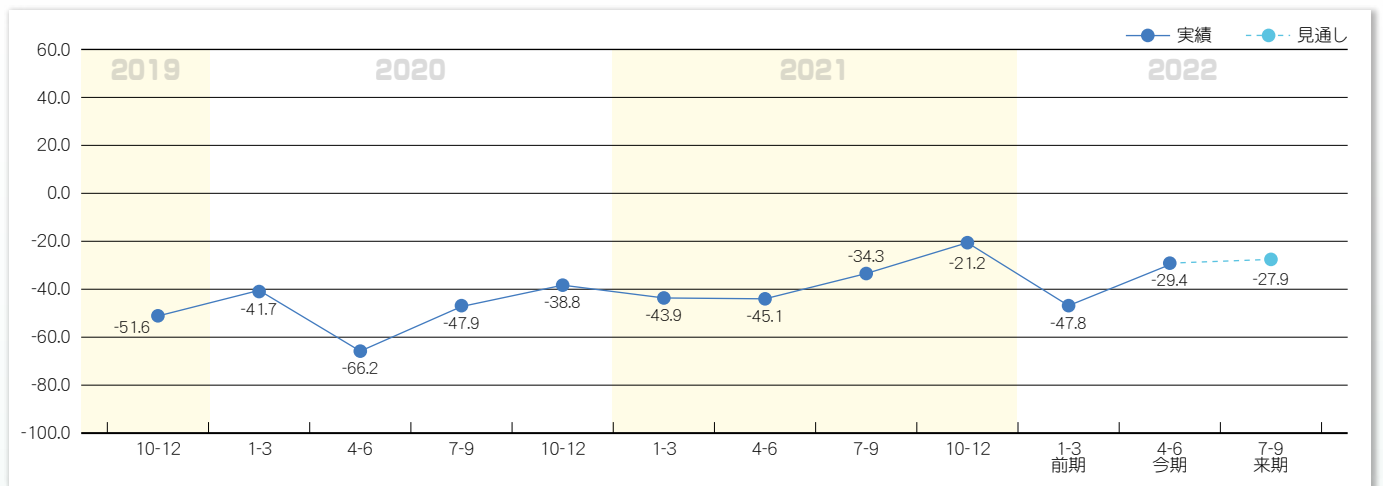
回答数68社

今期の業況D-Iは、前期比18.4ポイント上昇の▲29.4。依然として厳しい状況であるが、売上の回復などにより改善。来期の予想業況D-Iは1.5ポイント上昇の▲27.9と、わずかに改善の見通し。

業況D-Iの推移

	2019			2020			2021			2022		
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
業況D-I	▲51.6	▲41.7	▲66.2	▲47.9	▲38.8	▲43.9	▲45.1	▲34.3	▲21.2	▲47.8	▲29.4	▲27.9

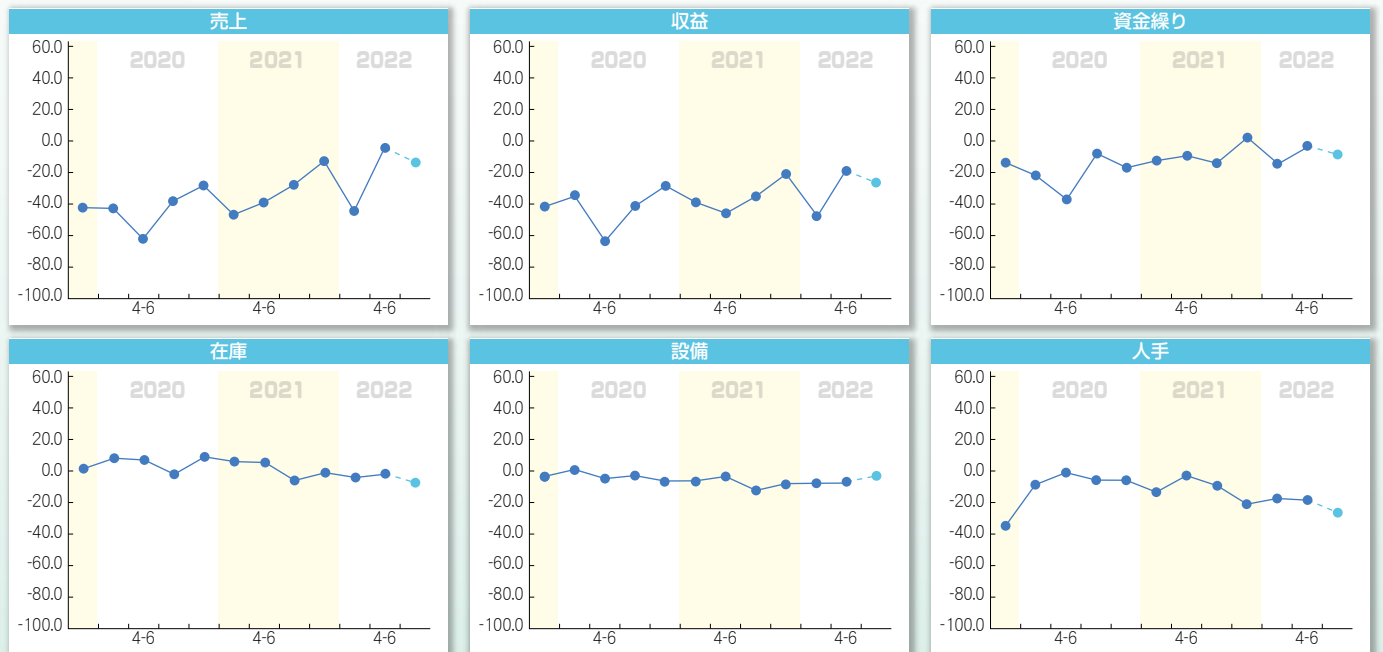
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D-Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



調査員のコメント



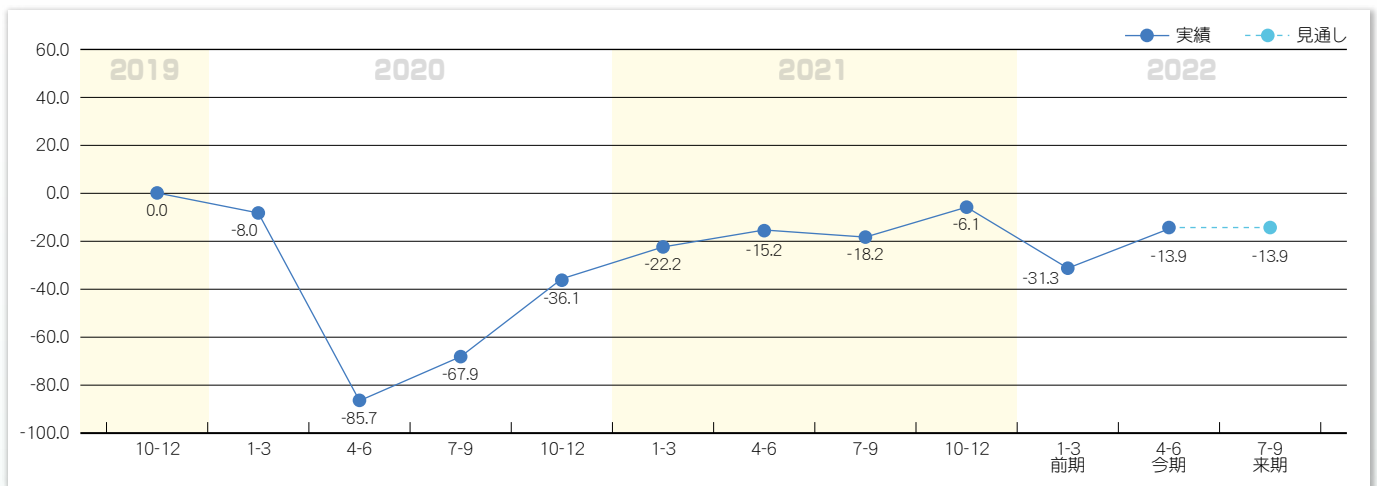
- 規模の大きいイベントが行えるようになり、売上が少しずつコロナ前の水準に戻ってきている。(貴金属販売)
- 半導体不足や上海ロックダウンにより、なかなか新車が入ってこないが、中古車の需要をキャッチアップすることで、利益が出せている。(自動車販売)
- コロナの影響は依然続いているが、昨年と比べ来店客数は増加しており、回復傾向。(食品販売)



サービス業

回答数36社

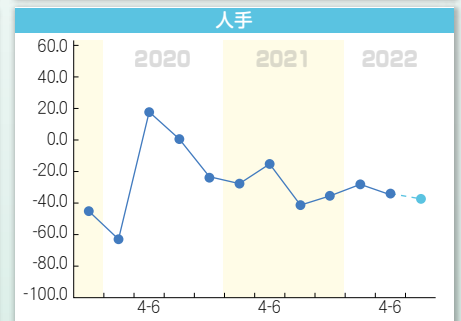
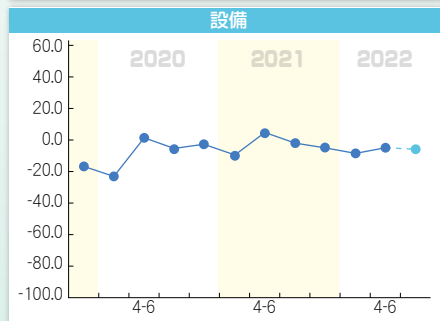
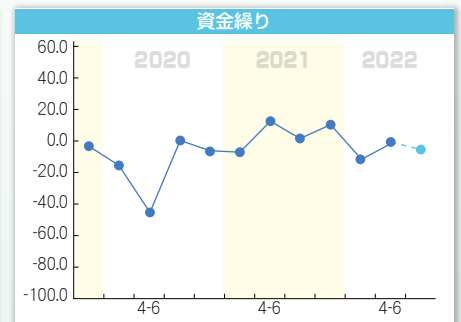
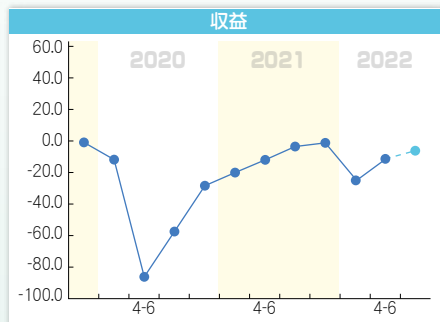
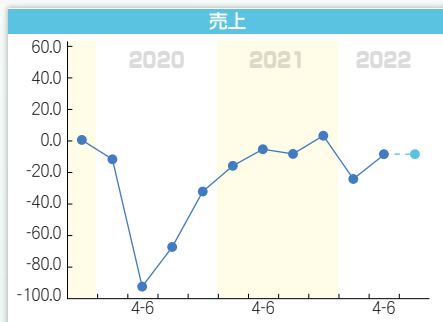
今期の業況D・Iは、前期比17.4ポイント上昇の▲13.9。コロナの影響が落ち着きつつあり、売上や収益が回復傾向にある企業が多い。一方で、原材料価格高騰による利幅縮小も見られる。来期の予想業況D・Iは▲13.9と、横ばいの見通し。



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- ウクライナ情勢などの影響により染料等の仕入価格が上昇。コロナの影響は回復傾向で、来店客数も戻りつつある。(理美容室)
- 本業は安定推移であるものの、コロナ、ウクライナ情勢、半導体不足などにより、顧客の財政状況が悪化している。(税理士法人)
- 材料価格、原油価格高騰による利幅縮小を懸念しつつも、売上を増強すべく、さらなる出店を検討している。(クリーニング店)

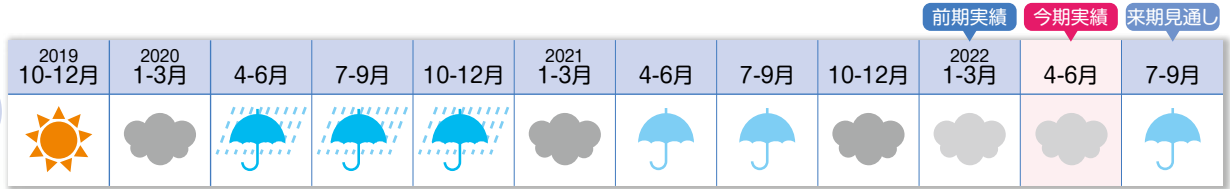


建設・不動産業

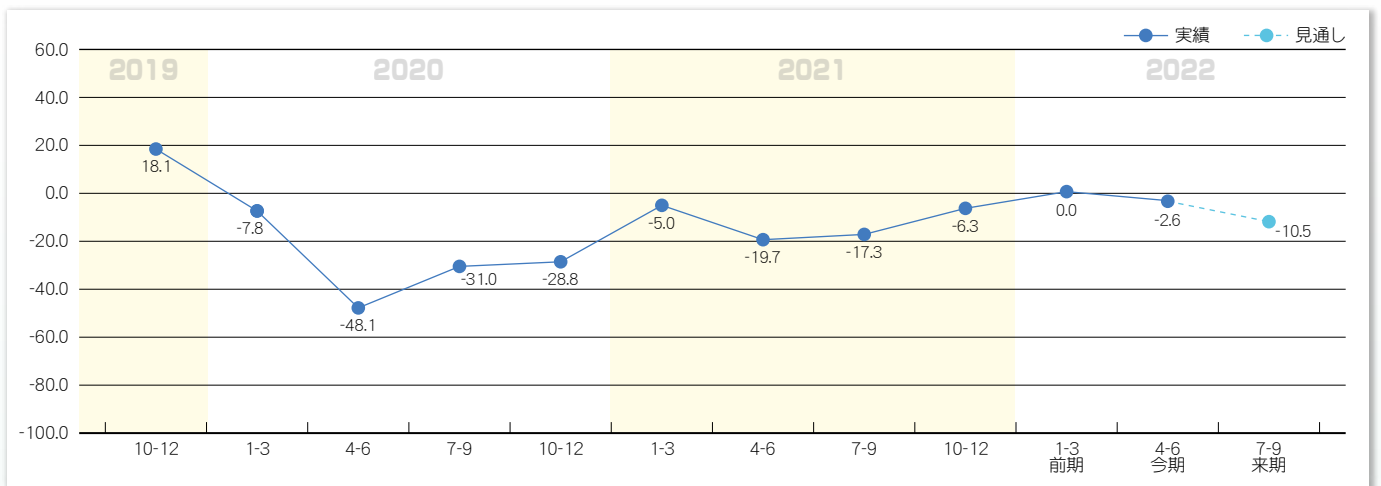
回答数76社

今期の業況D・Iは、前期比2.6ポイント低下の▲2.6と、四期ぶりに悪化。原油・原材料価格高騰の影響を懸念する声が多い。来期の予想業況D・Iは7.9ポイント低下の▲10.5。

業況D・Iの推移



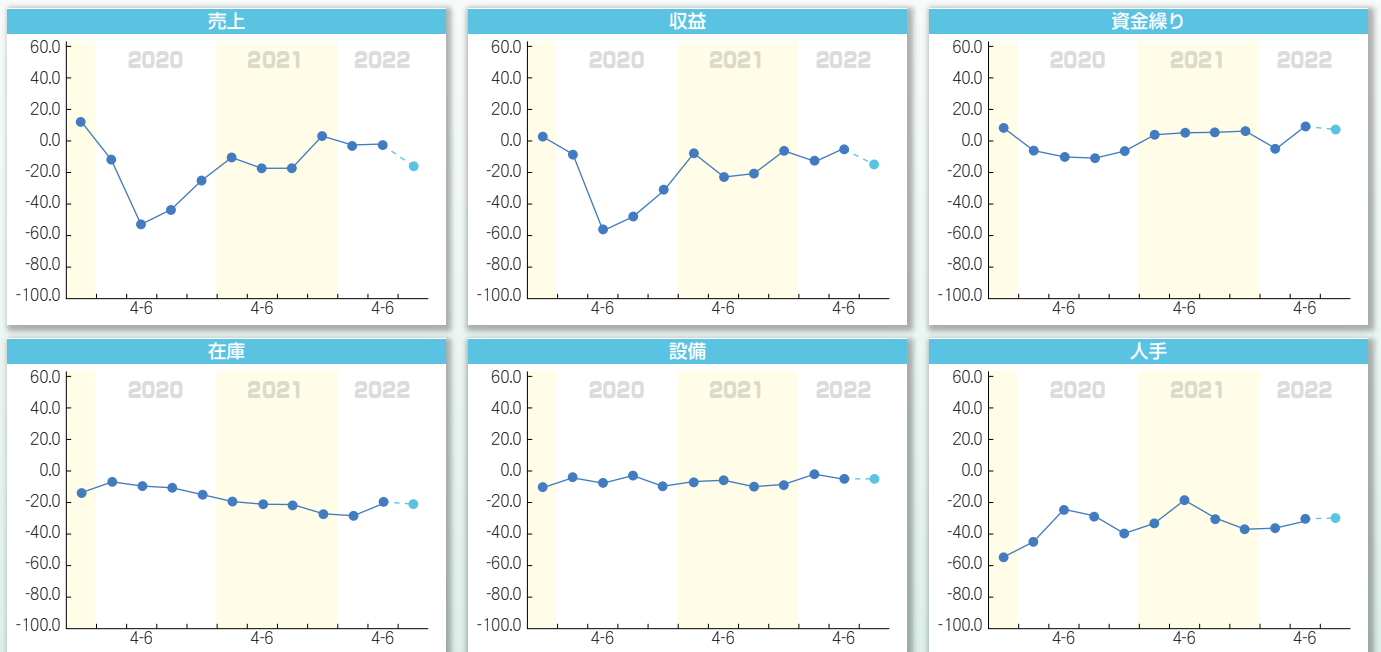
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



調査員のコメント



- 依然としてコロナの影響から売上は低調。材料費の上昇により、利幅は縮小。出口が見えない不安がある。(住宅建設)
- 公共工事の受注は順調であり、売上高は安定推移しているが、人手が不足している。(建築土木)
- 受注は例年通り良好に推移しているが、原材料費高騰による利益圧迫に課題を感じている。今後は値上げ交渉や良質な人材確保など経営課題解決に向けた取組や事業効率化を図り、利益確保に向け活動していく。(建築土木)